

### (3) -7 コイ (コイ目コイ科)

#### ① 分布

川では、中流域から下流域の集落  
池では、ほぼ全集落



#### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池

#### ③ 採録した呼び名

- ・ 共通 コイ (全集落)
- ・ ニゴイや錦鯉との区別 イケゴイ, クロゴイ, マゴイ
- ・ 稚魚 コイゴ, コイナエ

#### ④ 分布と呼び名について

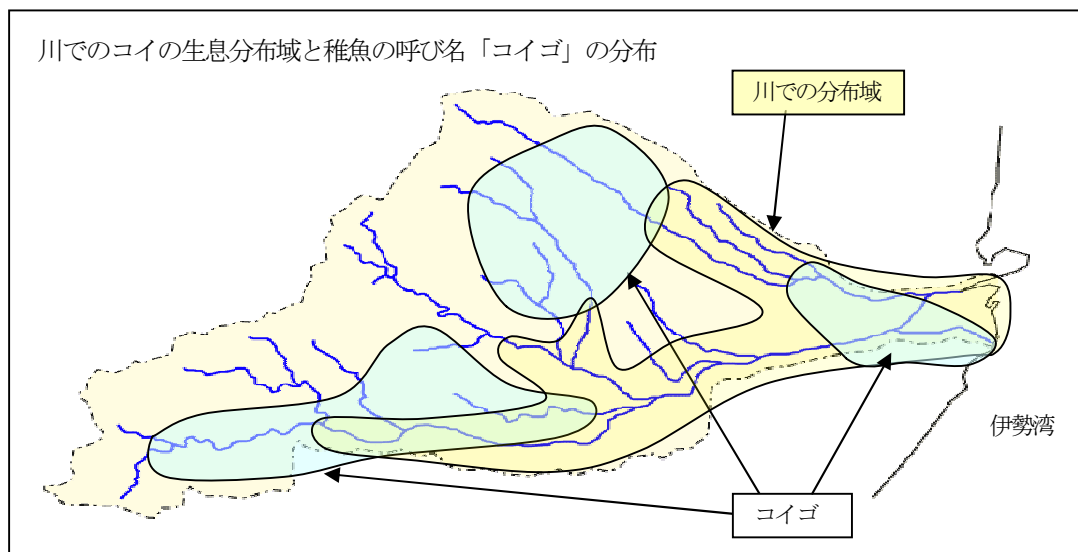
川においては中下流において、池においてはほぼ流域全体で見られたという。

鈴鹿川, 内部川といった幹川の中下流域では、渇水期において表流水が絶えることがしばしばあったこともあり、川において本種を見ることは少なかったようである。一方、井堰の下などの深みや当時本川堤防沿いに伏流水等による水の絶えることのない水路があり、そういった所で見られたという。

呼び名としては、標準和名である「コイ」をはじめ、稚魚名、錦鯉等との区別したものを含め、計6種を採録した。

流域の全集落から「コイ」を採録したほか、錦鯉との区別で「クロゴイ」や「マゴイ」という呼び名が流域全域で見られた。

なお、稚魚名として「コイゴ」が山間部を中心に採録されたほか、一部の集落で「コイナエ」とも呼ばれていた。



#### ⑤ その他

調査対象としなかった錦鯉は「ヒゴイ」、「イロゴイ」、「アカゴイ」と呼ばれたようであるが、1935年当時には川や池ではほとんど見られなかったようで、そのため、「クロゴイ」「マゴイ」といった呼び名はどれだけ一般的であったかは不明である。

この他、鈴鹿市上田町において、かつて地域を流れる井戸川の水を生活用水に使い、各家で引きこんだ水によりコイが飼われていたという話を採録した。

### (3) -8 ニゴイ (コイ目コイ科)

#### ① 分布

中下流域の集落

#### ② 主に見られた場所

川, 水路

#### ③ 採録した呼び名

- ・ 固有名 カワゴイ, ニタリ, ニタリゴイ
- ・ コイとの混称 コイ

#### ④ 分布と呼び名について

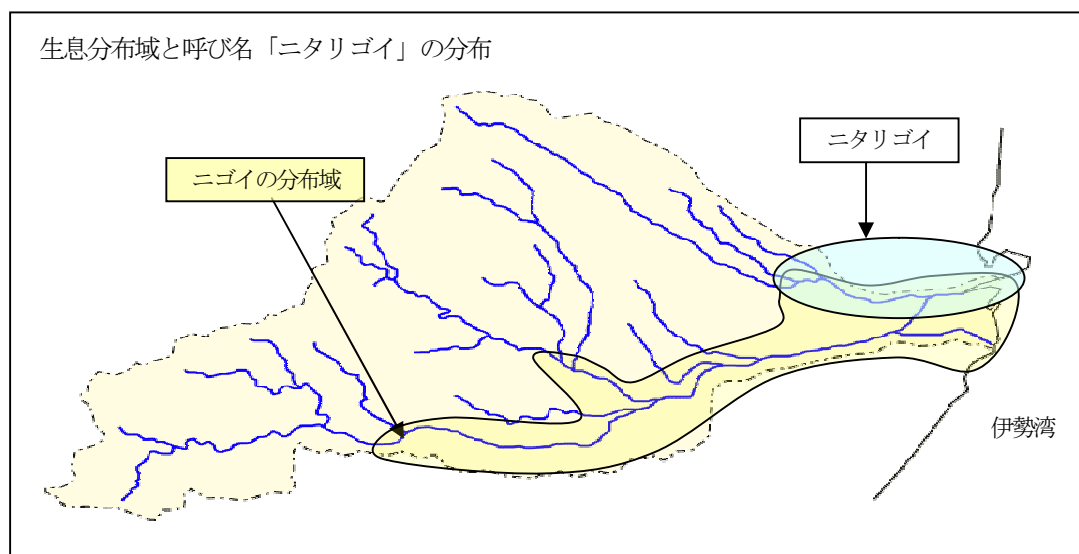
主として中下流域から河口付近にかけての本川や水路で見られたという。

ただ, 中下流域を通し断片的な生息情報しか得られなかったことから, 生息数は多くなかったものと見られる。これは, 鈴鹿川や内部川といった幹川の中下流域では渇水期において表流水が絶えることがしばしばあったことが影響したものと見られる。

呼び名としては, 「ニタリゴイ」をはじめ, 一般のコイとの混称を含め, 計4種を採録した。

下流域の四日市市塩浜地区から内部地区において, 通常のコイと区別し「ニタリ」, 「ニタリゴイ」を採録したほか, 中流域では「カワゴイ」と呼ぶ集落が見られたが, 地域的に広がりのある呼び名ではなかったようである。

全体的に, 写真調査では生息状況がはっきりとしない傾向にあり, 生息数, 生息場所とも限られたため, 普通のコイの変ったものという認識であったものとも考えられる。



#### ⑤ その他

下流域において, 本種を「コイのオン (雄)」, 普通のコイを「コイのメン (雌)」と区別していた集落が見られた。

### (3) -9 フナ (ギンブナ) (コイ目コイ科)

#### ① 分布

川や水路では、最上流域の一部を除く集落  
池では、ほぼ全集落

#### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 水田

#### ③ 採録した呼び名

- ・ 共通 フナ (全集落)
- ・ 稚魚 コブナ, フナコ, フナゴ, フナ  
ッコ
- ・ その他 ジブナ, フナタ

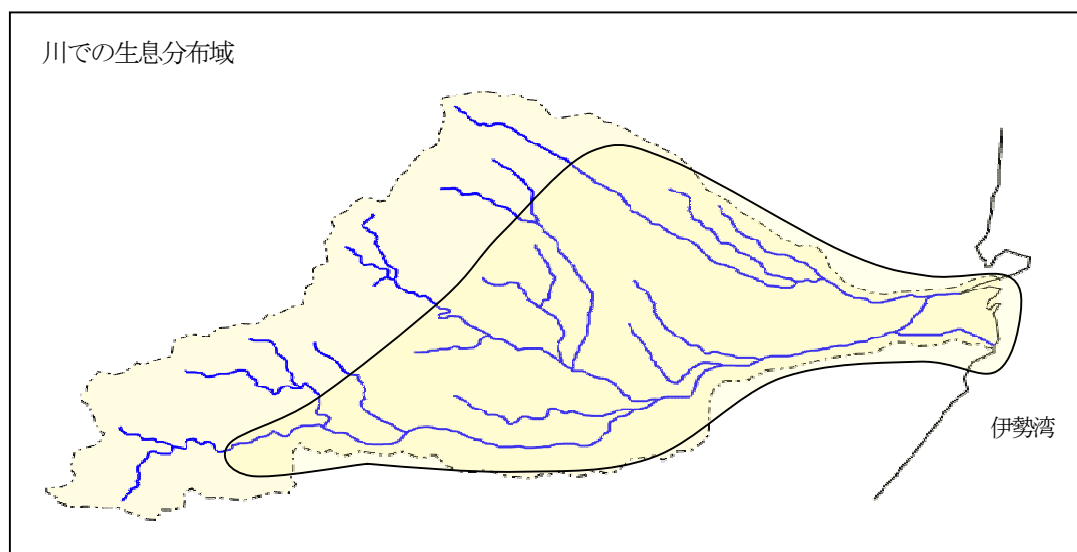


#### ④ 分布と呼び名について

川や水路においては中下流域を中心として上流域まで, 池においてはほぼ全域においてよく見られたという。また, 中下流域では水田でも稚魚などが時期により見られたという話を多くの集落から採録した。

呼び名としては, 一般的な呼び名である「フナ」をはじめ, 稚魚名等計7種を採録した。

全集落から採録した「フナ」のほか, 稚魚名である「フナコ」又は「フナゴ」もほぼ全域から採録し, 流域では一般的な呼び名であったと見られる。また, 「ジブナ」, 「フナタ」と呼ぶ集落も見られたが, これらは地域的に広がりのある呼び名ではなかった。



#### ⑤ その他

色のついたフナの呼び名として, 「エビスブナ」(四日市市小古曾沢), 「チョウセンブナ」(鈴鹿市上田町)を採録した。

その他, 流域全体で冬期に本種を漁の対象とした「寒ブナ」取りが行われ, 小型の寒ブナを煮豆とともに煮て「鮎豆」として食べたという話を採録した。

また, 石薬師地区においては, 「フナ籠」を池に沈め本種を取ったという。

### (3) -10 タモロコ (コイ目コイ科)

#### ① 分布

最上流域を除く集落

#### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 水田など

#### ③ 採録した呼び名

- ・ 共通 モロコ (全集落)
- ・ その他 ドロモロコ, バンバタ, バンバタン, ホンモロコ

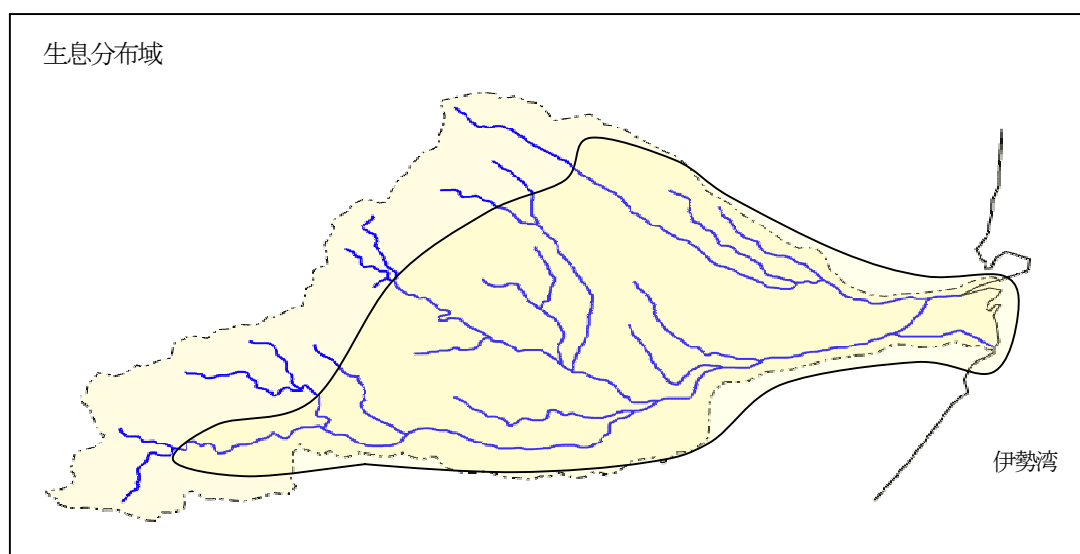


#### ④ 分布と呼び名について

ほぼ流域全域の川, 水路, 池でよく見られたほか, 水田においても見られたという。

呼び名としては, 一般的な「モロコ」をはじめ, 計5種を採録した。

流域全体で「モロコ」を採録したほか, 一部の地域では「ドロモロコ」, 「バンバタ」, 「バンバタン」と呼ばれていた。



#### ⑤ その他

本種に代表される「モロコ」という呼び名は, 「ハイ」, 「ハエ」, 「ハヨ」と同様に小魚を表す一般的な言葉としても使われる傾向にあり, それらとの使い分けとしては少し丸みを帯びた小魚をそのように呼び, 本種のほか, アブラハヤ類, モツゴ, カワバタモロコも「モロコ」と混称されていたケースがあった (特にアブラハヤ類は流域で広く「ヤナギモロコ」と呼ばれた)。

その他に, 魚種は不明であるが, かつては鈴鹿市三畑町で「イチモンジモロコ」, 鈴鹿市津賀町・三畑町で「ホンモロコ」と呼ばれる魚が見られたとともに, 亀山市田村町名越では「ヒゲモロコ」と呼ばれるイトモロコと見られる魚が生息していたという話を採録した。

なお, 本種は秋祭りなどに, よく寿司の材料として使われたとともに, 鈴鹿市東庄内において, 「稲の花を食べたモロコはうまい」という表現を採録した。

### (3) -11 カワバタモロコ (コイ目コイ科)

#### ① 分布

上中流域を中心とした集落

#### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池

#### ③ 採録した呼び名

- ・ 体型 ハラボテ
- ・ 体色 ギンモロコ
- ・ 婚姻色 キイロイモロコ, キーモロコ, キンバイ, キンバヨ, キンモロコ
- ・ その他 タビラコ
- ・ タモロコとの混称 モロコ



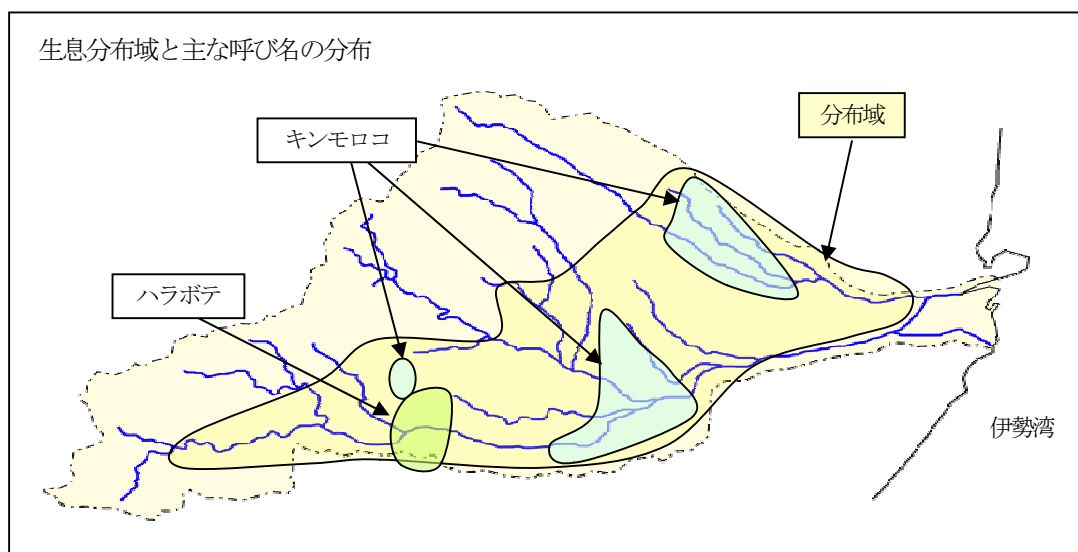
#### ④ 分布と呼び名について

上中流域を中心とした池や水路で見られた魚であるが, 生息情報が得られなかった集落も見られ, 生息数の多い場所は地域的に限られたためか, 又はよく見られたタモロコの小型のものと思なされたものと考えられる。

呼び名としては, 体全体が金色の婚姻色となることから名付けられた「キンモロコ」, 「キンバヨ」をはじめ, 体型からのものやタモロコとの混称を含め計9種を採録した。

金色の婚姻色からの呼び名である「キンモロコ」を亀山市白木町をはじめ, 国府・井田川地区や四日市市小山田地区で採録したほか, ずんぐりとした体型からの呼び名である「ハラボテ」を亀山市神辺地区で採録した。

なお, 多数生息し, より一般的であったタモロコとともに「モロコ」と呼ばれていた集落も多く見られた。



#### ⑤ その他

本種は写真確認が難しいため, 「小型のモロコのように, 時期により体色は薄い金色となる」などと補足説明し, 周辺集落で採録した呼び名を使用し, 聴き取り調査をした。

かつては, 場所によりよく見られた魚種であったようであるが, 現在はまったく姿が見られず, 山間部の小さなため池等極めて限られた水域においてのみ生息している模様である。

### (3) -12 ヤリタナゴ (コイ目コイ科)

#### ① 分布

最上流域と最下流域を除く集落

#### ② 主に見られた場所

川, 水路, 池

#### ③ 採録した呼び名

- ・ 食味 ニガタ, ニガテン, ニガバイ, ニガブナ, ニガッペ, ニガリ, ニガンタ, ニガンペ
- ・ 体色 (銀) カンテラバイ, ギンタ, ギンチョ, ギンバヨ
- ・ 婚姻色 アオセン, アオセンペ, アオタン, アオテン, アカセンベ, アカセンペ, アカセンペタ, アカゼンベ, アカダ, アカデ, アカテン, アカブナ, アカフン, アカフンドシ, アカベタ, アカペタ, アカベラ, アカメン, イドガミサン, ベンテンサン
- ・ 体型・その他 サンタ, サンピン, サンペ, セッペン, センタ, センピ, センピン, センベ, センペ, ゼンベ, ゼンペ, センベタ, センペタ, センペラ, タナ, タナババ, タナビラ, ナンペ, ベッタ, ベッタラ, ヘンペラ, マンペ



#### ④ 分布と呼び名について

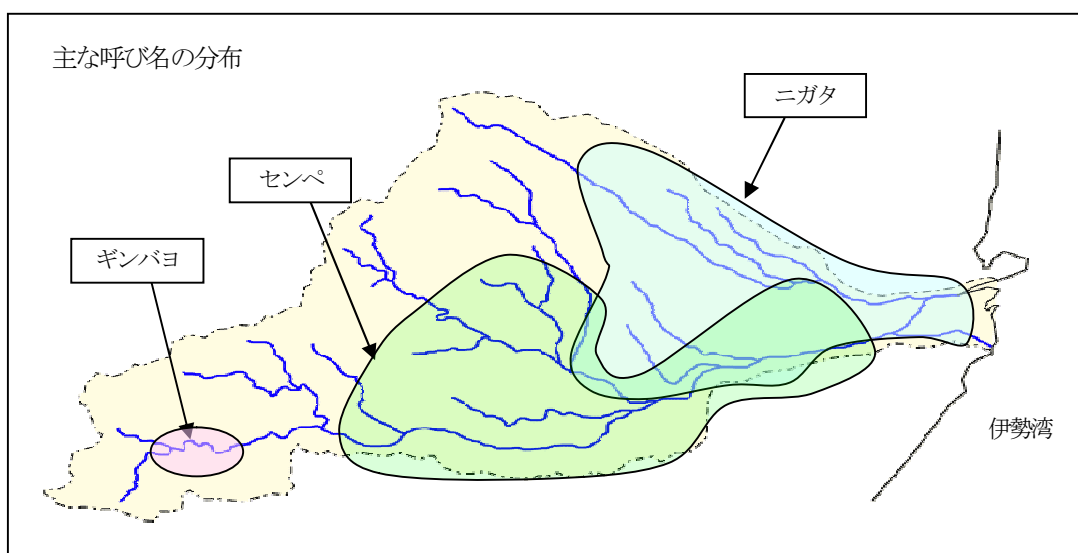
中下流域を中心とした川, 水路, 池でよく見られたという。

ただ, 最下流域においては, 集落により生息情報が得られなくなる傾向が見られた。

呼び名としては, 「センペ」をはじめ, 食すると苦いこと, 赤や青みがかかるという婚姻色のものなどを含め計54種を採録した。

中流域を中心とした地域では薄い体型からの呼び名である「センペ」を広く採録したほか, 中下流域及び三重郡を中心とした地域では苦い食味から「ニガタ」, また関町加太地区では「ギンバヨ」と呼ばれた。

なお, 婚姻色のものは, アカ (赤) やアオ (青) という色を表す言葉を冠した多様な呼び名を中流域を中心に数多く採録したほか, 中には水の神様に由来する名である「ベンテンサン」又は「イドガミサン」とも呼ぶ集落も見られた。



#### ⑤ その他

現在では, 産卵場所として不可欠なドブガイなどが川や水路, 池から姿を消したため, 本種の姿はほとんど見られないが, かつては中下流域で最も一般的な魚のひとつだったという。

なお, 他に複数の種類のタナゴ類がいたことを示す話が数集落で聞かれた。